

## 藤川 克二さんを訪ねて

日焼けサロン店長から

梅田の日焼けサロンで店長をしていましたが、平成8年1月17日に発生した阪神淡路大震災の前々日に、社長から「神戸の店の店長をしてくれるか」と言われ、西宮のマンションに住まいを移す準備をしていた時でした。

灯りが無いという事は、こんなに暗いのかと思いましたが、家内も同じサロンでバイトをしていて、住んでいた神戸市中央区のマンションが倒れて大変だったようです。

当時の自宅からバスで店

に向かうつもりでしたが、何時間も待たなければいけないので、道を教えて貰って車で山の中の道を使つてずいぶん遠回りして通いました。

震災後の暫くは、中央区のマンションでも備蓄をしていましたが、今は忘れていません。私だけでなく、自治会の役員を担当していた時は消防訓練を計画しましたが、参加者は集まりませんでした。

### 富島運輸に入る切っ掛け

先代の社長上田健治さんとは、息子さんに私の姉が嫁

いでいた関係で、「こちらを手伝ってもらえないか？」とお誘いを頂いたのが切っ掛けです。

当時は富島老人クラブと云われていたようで、ベテランのドライバーが辞められる事になって、後任を探しておられる時に、世代交代を考へておられたようです。こちらに来て16年経ちましてベテランの域に達しました。2年前に、先代から社長を引き継ぎました。

### 大阪市立美術館との関わり……

OB立石日賀元さんの回想より抜粋。

「昭和11年の春に大阪市立美術館が開館。富島組が美術館の御用を始めたのは、開館記念に日展を開催される事になり、京都美展を終わつた作品を京都美術館から運搬して陳列する事であった。当時はトラック40台を有する京

阪神第一の運送会社で、純白

のボディに亀甲マーク・富島組と赤く描いた10数台のトラックに、日展作品を積んで運んだ。当時は出品作品の大きさに制限がなかったの

で、縦7尺・横24尺という大きなものがあり、当時のトラックは2屯積で、巾6尺・長さ14尺であったから4寸角25尺の材木で枠を作つてトラックに取り付けてその大作1点だけを載せ、前後にトラックを一台づつ配して輸送中、淀川の堤防に出ると風を孕んで破れそうになつた。日本画も現在は嚴重に裏打ちしてありますが、当時は本紙だけで裏打ちしたものは稀だったから心配させられたが、ノロノロと牛歩のよう

に運んだ。以来、美術館の御用は殆んど富島組に御用命頂く事になった。各美術団体展の作品輸送も陳列も全部わが社であり、私とその仕事を主になつてやって来たから、美術品と言えば富島組、富島とい



富島運輸株式会社 代表取締役

ふじかわ

かつじ

藤川 克二